

南三陸と、災害時の「隣」から支援「ぼうさい朝市ネットワーク」

ぼうさい朝市ネットワーク

全国コーディネーター・藤村望洋

発災時に事態を「過小評価」する心理的バイアス

・・・3・11は大失敗から始まった！

3月11日午後2時46分は、永田町合同庁舎7階で、総合特区にかかる地域活性化策の会議中だった。山形、岡山、愛媛、高知等全国の市町村が集まっていた。いきなり揺れだして収まらず、全員が机の下へ。直下型地震の場合は10～15秒間の揺れ、プレート型は1～4分間揺れると聞いていた。これはプレート



南三陸町役場・防災対策庁舎

(取り壊されることになっている)

型！阪神大震災の震度7を経験している私にとっては、いつもの東京の地震程度にしか感じられず、窓から外を見ても被害のあった様子もない。会議再開。しかしまた地震。また机の下。どうもおかしいということで会議は解散。三々五々に階下へ降りて別れて行った。私もすぐ近くの地下鉄永田町駅に来てみたら、地下鉄が止まっている！しまった！全国から来た人たちを、電車も止まっている東京の街中に何の情報もなしに放り出してしまった。すでに携帯電話は通じない！

私は、中央防災会議首都圏直下型地震避難対策特別調査会の専門委員として、地震の時は（学校も会社も）すぐに帰宅するのではなく、しばらくその場に留まって、交通や道路などの情報を把握して、せめて半日後から帰宅行動を開始するのがいいという答申をまとめた張本人の一人である。その私が、全国の人を何の情報も持たずに東京の町に放り出してしまったのである。結局、私自身も帰宅難民となり、新橋駅近くの友人の事務所で一夜を明かした。あっという間にコンビニの棚が空になり、携帯の充電器も売り切れていた。

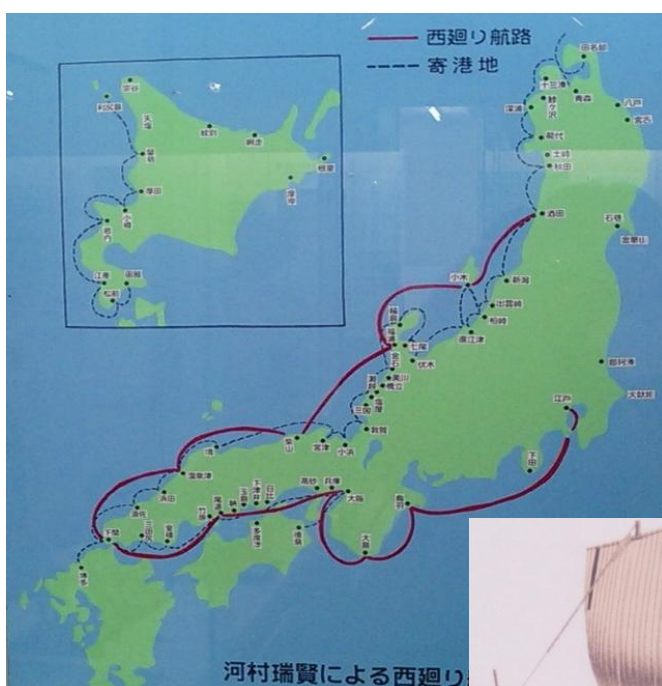
なぜこのような失敗をしたのか？2時46分以降の事態や被害の過小評価が原因である。東日本大震災の被災地においても、初動期の「事態の過小評価」が被害を大きくしていることが判ってきている。今後の対策を考えるにあたっての大きな問題点だと思われる。

一晩中かじりついていたワンセグの小さな画面から、東北が津波で甚大な被害を被っており、仲間の南三陸町も壊滅状態であるらしいことが判ってきた。

災害時の「隣」から支援ネットワーク

・・・「美味しい救援物資がやってきた！」

「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時、被災地に救援物資を直接送るのではなく、混乱していない「隣」から支援する仕組みを、「災害時の隣から支援」と名付け、その日常的な練習を「ぼうさい朝市」として、2008年から3・11までの3年間で全国15地域を結んで25回開催。北前船ルートの港町を結ぶ産直市「ぼうさい朝市」は、「美味しい救援物資がやってきた！」と称して「美味しい防災セミナー」も開催し、地域内の商店街、町内会、学校、団体や行政の協働の防災まちづくりを推進してきた。



北前船の
港と港をつなぐ
横々ネットワーク



北前船の港をつなぐ
「ぼうさい朝市」の
「美味しい救援物資が来た！」
産直市と、
防災まちづくり



大阪市淀川区(神崎川・三津屋地区)「ぼうさい朝市」

町内会防災リーダーによる会場作り

河川敷の「ぼうさい朝市」



山形のいも煮



瀬戸内海レモンの島・岩城島



伊勢の伊勢エビ



町内会女性部や中学生が販売



岡山県笠岡の
「ぼうさい朝市」

宮城県南三陸から
美味しい魚の
「しっかり朝ごはん」や
笹蒲鉾が登場

ぼうさい朝市

**災害パネル
展示**



**全国から
ご当地名物大集合**

おいしい救援物資(有料)がやってくる。

- 【南三陸】 しっかり朝ごはん(おかず) 笹かま
- 【山形県酒田】 いも煮 だだち まつ煎餅 おくり人線香
- 【長野県飯山】 りんご餅まん りんごかりんとう
- 【島根県浜田】 赤天 のどぐる子物 イカの一夜干し カレイの干物
- 【鹿児島県鹿儿岛】 薩摩揚げ 黒豚みそ かつお味噌 かつお煮 豚汁
- 【弓削島】 海苔の佃煮 はちみつ レモンマーマレード レモン果汁
- 【三瓶町】 本場安城のもぎたてみかん【全国各地より】 いろんな胎
- 【笠岡諸島】 島のり コーヤ佃煮 灰干し その他...
- 【特別ゲスト】 料理の鉄人 古庄先生のビーフシチュー

ご当地名物 TVでも紹介された
北木島の灰干し
初登場!



起震車体験

10:00~12:00
地震体験を通して
チャリティに参加しよう!



とき: 12月10日(木) 9:00~12:00
(おかげいち当日)

ところ: 笠岡中央商店街本町ビル前特設会場
(雨天の場合一部イベントは東本町にて実施)

連絡先: 笠岡商工会議所 TEL 0865-63-1151



共催: 元気笠岡推進協議会/北前船ルート蔵屋敷ネットワーク協議会
岡山県笠岡市の防災再生事業
 (大規模地震の対応への防災拠点としての活用)

南三陸町は、「ぼうさい朝市」へ笹蒲鉾や水産物をもって参加し、南三陸でも「ぼうさい朝市」を開催してきた仲間である。3・11直後から、南三陸への「隣」を山形県酒田に設定し、「ぼうさい朝市」の全国ネットワークで支援を開始。発災直後から約1か月半は、南三陸の避難所に対する救援物資を、避難所からの要望をケイタイメールで毎日聞き取って、全国ネットワークに情報を流し、全国から山形県酒田に救援物資を集めて、酒田から南三陸にピストン輸送。3年間練習してきた「隣から支援」の仕組みが全面稼働。

南三陸「瓦礫の平原」



「隣」は酒田の中通商店街



全国のネットワークは、
酒田に支援物資と支援金を集結

津波で犠牲 土産店主の遺志継ぎ

「ぼうさい市」全国から支援



有志らと炊き出しを行う「ぼうさい市」(3日、宮城県南三陸町)で撮影



宮城・南三陸町 土産店主 宮野慶弥さん

宮城・南三陸町

ぼうさい市は2008年、土産店主も所属する志津川おさかな通り商店街など全国NPO法人や商店街などが設立、現在は23団体が加盟する。災害時の

東日本大震災で壊滅的被害を受けた宮城県南三陸町。「商店街が地域防災のリーダー」と提唱していた土産物店経営宮野慶弥さん(59)が津波に流されなくなった。土産さんは全国の商店街などで組織する防災ネットワーク「ぼうさい朝市&昼市」のメンバーで、土産さんの遺志を継ごうと、仲間が支援物資を届けるなどして町を支えている。(秋山洋成)

相互協力を目指すもので、今も現地にカセットコンロや灯油などを届けている。土産さんは「商店街がリーダー役となり、地域作りや防災を行うべき」と常々語り、全国の商店街を訪ね歩いた。03年には先進的な防災活動に取り組む東京都新宿区の早稲田商店会を視察。そこで同商店会の藤村望洋さん(67)と出会い、藤村さんがぼうさい市を企画した際、自らの商店街にも加盟を勧めた。

地震発生当日、海岸から約1.5キロ離れた土産物店にいた土産さんは、父牧男さん(88)と家族5人で店ごと津波にのみ込まれた。店の外にいた次男翔太さん(24)は助かったものの、牧男さんは亡くなり、妻多恵子さん(54)ら3人は行方不明だ。

テレビで南三陸町の惨状を見た藤村さんは、すぐに山形県酒田市の中通り商店街に向かい、メールで全国のメンバーに支援を要請。同商店街を拠点に、3月18日から南三陸町に支援物資を届け続けている。4月3日には、藤村さんが町内の避難所を訪ね、約700食分のうどんやそば、焼き芋の炊き出しも行った。

土産さんと防災対策を進めてきた南三陸商工会の山内正文さん(62)は「全国からの応援が心の支え」と感謝。藤村さんは「土産さんの思いを引き継ぎ、南三陸が再生するまで支援したい」と話している。

続いて救援第2ステージは、南三陸の商店や水産加工所等の立ち上げ支援。家も商店も工場も流された南三陸の零細企業に対して、店舗としてのテントを全国から送り、全国から商品を送り、全国から販売する人も駆けつけて、南三陸の個店と全国の地域を結んだ復興テント市「南三陸・福興市」を開催。



朝日新聞 2011年8月5日

福興市第1回は、4月28日と29日の2日間で、全国から送られたテント16張りに、全国から「ぼうさい朝市ネットワーク」の人と商品があつまり、2日間で1万5千人の人出にびっくり。売上は、地域通貨タコを含めて275万円。2回目の5月29日は、「ぼうさい朝市ネットワーク」は35ブースと増え、雨模様でも人出は衰えず、福興市の立ち上げが見事に成功。

3回目の6月からは、地元の出店が増えて、地元の商店と商店街の立ち上げの狼煙を上げるという当初の目的に向かって勢いがついた。4回目の7月は、地元の商店が中心となり、北海道から沖縄までの全国連携「美味しい救援物資」が勢ぞろいして、ボランティア・ツアーも増えて、売り上げも4時間で680万円を記録。5回目の8月はようやく晴天となり、いよいよ地元の商店の勢いがつき、瓦礫の中に仮設商店街を立てる方向性が実現に向けて走り出した。全国からのツアー客も多く、売り上げは4時間で650万円。6回目の9月は、地元の出店も多く、全国からのB級グルメなどの参加も多く、天気もよかったので、ますますの勢いが期待されが、売上は5時間で500万円に留り、地元の方々にも福興市の周知が図られ、ちょっとピークは越えたかなあと思われた。ところが第7回の10月は、最高の人出（2万1千人）。売り上げも最高の700万円を記録。11月は復興工事で場所を縮小したが、1万8千人、売上528万円。12月はお休みで、1月末に、瓦礫の中に、仮設商店街のオープン。



「南三陸・福興市」。小雨にもかかわらず一万人を超えるたくさんの人出にびっくり。



酒田市中通り商店街と南三陸佐藤町長



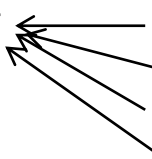
鹿児島豚汁

地域連携の商店街支援「マッチング」

南三陸の店を流されたお蕎麦屋さんの立ち上げを、福井の商店街が「越前手打ちおろしそば」で支援し、長野県下諏訪の商店街が、南三陸の有名だったマドレーヌの復活を支援し、店も家も工場も流された笹蒲鉾屋さんを、鹿児島のおつま揚げ、四国新居浜のじゃこてん、島根県浜田の赤てん、福井県小浜の板蒲鉾等々が支援し、南三陸の水産加工のお店と全国の干物屋さんが連携し、北海道留萌が南三陸の中華料理店に豚ジンギスカンを提供するなど、全国連携による個店と商店街の支援は、地域連携の新しいビジネスモデルを構築して、元気の出た南三陸の商店街は、1月の仮設商店街立ち上げへと進んでいる。



南三陸の蒲鉾店



鹿児島のおつま揚げ
四国のじゃこてん
島根県浜田の赤てん
福井の板かまぼこ



南三陸の店を流された
中華料理店「たけや」
+
北海道留萌市の
「豚ジンギスカン」



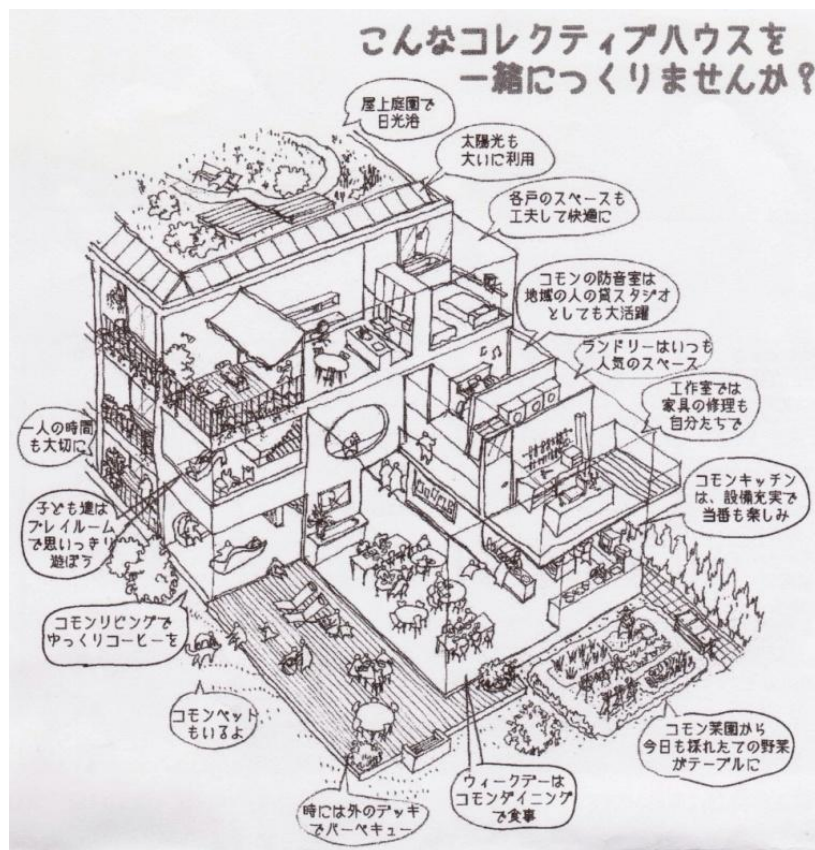
南三陸の店を流された
そば屋の小野寺さん
+
福井名物
「手打ちおろしそば」
福井の商店街が
小野寺さんのお店
たちあげ支援

災害ユートピアからの新しいまちづくり

避難所の小学校では、朝6時に起床。ラジオ体操。朝ご飯。自衛隊の炊き出しの温かいご飯と、避難所の皆さんが作った味噌汁。広い体育館は、ぎっしりとダンボールと毛布が敷かれており、細い通路が、各々の家族をわずかに区切っている。幼い子供が走りまわる。その家族の孫であるとともに、この避難所全体の「孫」となっている。地域全体が子育てする関係が見事にできている。地域のあらゆる世代が、同じ場所で、同じ生活をしている。午後5時、一斉に夕食。同じものを食べながら、各々の家族の団欒が見える。家族が毎日そろってご飯を食べる時間の共有は、南三陸でもなかったかもしれない。午後6時には真っ暗。星がきれい。山の端の木々に、クルスマスツリーのように星がくっついている。午後7時には全員が毛布にくるまっている。時間の流れを地域が共有するコミュニティの姿が、避難所では現前していた。1日の時間の流れであり、赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまでの、歴史の時間の流れを共有しているように思えた。「災害ユートピア」は、普段は断たれてしまった家族と近隣のコミュニティの、つらいけれどやさしい一瞬の復活なのだろうか。南三陸の復興まちづくりの姿はまだ見えないが、その核の一つは、避難所で復活した「時間の流れを地域が共有するコミュニティ」の姿だと確信。



(避難所・志津川小学校の朝。2011年4月3日)



現代は「無縁社会」と称され、孤立感が高まっている。東京では、若者が、長屋や昔の下宿のようなシェアハウス等に住む傾向が強まっている。南三陸の前浜を持つ小さな入り江の集落には、食堂や民宿と、グループホームとコレクティブハウスを組み合わせたような、漁業と観光、暮らしと生計が融合した集合住宅がいいのではないか？個々が孤立した住まいではなく、避難所に復活した「向こう三軒両隣」的な適度に干渉しあえる空間と仕組みを持ち、観光客も泊まることのできる長屋風集合住宅の案。

南三陸は、瓦礫の平原の中で、一からのまちづくりをせざるを得ない。九百年前、平泉の藤原清衡は、仏教の国づくりを考え、三代にわたり浄土のまちづくりを行った。今年、世界遺産に登録された。頼朝に攻められて滅んだ時、徳尼公を担いで三十六人衆は山形県酒田に逃れた。彼らは、武器を捨て商いでまちづくりを選んだ。商業の町・酒田は、北前船の舟運で日本一の港町として栄えた。南三陸や被災地は、藤原清衡の国づくり、三十六人衆のまちづくりの「一からの発想」を持つことができるか？全国の私たちはそれをどう支援することができるか？

（支援とまちづくりは続く）